# 白神山地ビジターセンターだより

2004. 夏の号　　No. 7


## ブナ林散策道観察マップ

ブナ林散策道は、歩くだけなら１時間ほどで回ることができますが、じっくり観察をすると半日もかかるほど見どころの多いコースです。ブナの林はもちろん、地すべりによってできた湿地、たくさんの草花、かつて人に利用されていた名残の切り株や炭焼窯のあとなどを見ることができます。

❼つるがどのようにして輪になったのか考えるのも楽しい。

❷駐車場付近に咲く白いザゼンソウ。

❶最初の堰堤の向かいではトチノキとカツラの大木が合体。

❹川の始まりを観察。

❸新しい倒木発見! 森の若返りが始まる。

❻炭焼窯の跡。

❺新緑の頃は花と鳥が競演。

【地図作成協力】
弘前大学教授
牧田　肇

# 白神山地の木と人々の関わり

弘前大学農学生命科学部　牧田　肇

白神山地はブナ林で有名ですけれど、もちろんブナだけが生えているわけでもなく、ブナ林の他に森林がないわけでもありません。

白神山地には、４７０種類の草や木（種子植物・青森県側調査）が生えていますが、このうちどのぐらいが「木」か数えてみました。コケモモなどごく小さい低木とツル植物は別としても、１０１種が木でした。これを比較的大きく幹がはっきりしている高木と、比較的小さく幹がはっきりせずに株立ちする低木に分けると、高木が44種類、低木が５７種類になりました。

白神山地で暮らしてきた人たちは、白神山地の植物と利用そのほかの強い関わりを持ってきました。そのような関わりのある植物は４７０種類のうち約１１０種です。そのなかに高木が３３種類、低木が２１種類ふくまれます。関わりのある植物が、全体の植物の約１/４弱ですから、関わりのある種が全種の３/４である高木、おなじく全種の１/３である低木は、ほかの植物にくらべて関わりの程度が強いといえます。

人々は、ひとつの植物といろいろな関わり方をします。関わり方を、飲食、衣料、薬・化粧、建材、家具材、道具、縄紐糸、包装材、製炭具、薪炭材、たき火、罠、暦、農耕、遊び、儀礼、餌、その他に分けて、ひとつの植物が何項目と関わりがあるかを調べてみました。「暦」はその花が咲いたら種蒔きをするなどの目安にするという意味です。「遊び」というのは、子供の遊びです。「儀礼」はお正月のお飾りに使うものなどです。「餌」は、人々と関わりのある動物、たとえばクマ、カモシカ、ヤマドリなどの餌になるということです。

（ブナ林）

関わり方の種類が最も多いのは、ブナでした。ブナは材をいろいろな道具に使います。材で炭を焼きますし、炭焼きの道具にもします。焚き火の燃料には最適で、薪材として重要な商品でした。ブナの実（「コノミ」とよびます）は動物、とくにマタギたちの最大の獲物クマの大切な餌となります。クマは秋に実った実を食べ、春には雪をかき分けてその下の実を食べます。人々もブナの実を食べます。

ブナとならんで関わりが多いのがサワグルミ（地方名・ヤシノキ）です。サワグルミは実は小さくて食用にならず、材も柔らかくて普通の建物を建てるのには使われません。でも、山で暮らす人々、ことにマタギたちにとっては、とても大事な木でした。マタギ小屋の骨組みと屋根はサワグルミの材と樹皮で作ります。樹皮は、ゼンマイを干すときの敷物にもします。イワナやサクラマスを獲って運ぶとき、樹皮で箱を作りました。

（サワグルミ）

フキなどの山菜を多量に採ったとき、束にして縛るのにサワグルミの若木の樹皮を紐にして使います。そして、何よりも、クマを授かった（獲った）時、山の神様に肉を串刺しにして捧げる「イワイジシ」の串には、サワグルミの樹皮をむいた真っ白い枝が最適でした。

逆に、こういう時に用いてはならないという植物もあります。カバノキ科のヒメヤシャブシ（地方名・イワシバ）です。ヒメヤシャブシは材にタンニンをたくさん含んでいます。このタンニンが刃物の鉄と反応して、串が真っ黒になってしまうので、イワイジシに使ってはならないのです。この植物は、この、だめだという一点だけで人々と関わりを持っています。

（ヒメシャブシ）

（タニウツギ）

使ってはならないと言えば、タニウツギ（地方名・ガジャシバ）も、箸に使ったり、庭に植えたりしてはならないと言います。それは、この木の枝を亡くなった人のお棺に入れて、冥土を旅する杖にするからです。同じようなことは、関東地方のハコネウツギでも言われます。でも、タニウツギは、ゼンマイ採りにとってはなくてはならない大切な木です。ゼンマイは主に雪崩あとの岩壁に生えます。これを採るのは大変危険な作業ですが、タニウツギはこのような場所に生え、枯れていない限り、かなり細い枝でも折れず、根こそぎになることもないのです。ですから、この木はゼンマイ取りの人たちにとって、手がかりとしてなくてはならないのです。

（ミズキ）

大切な木だから使ってはならないということもあります。ミズキは子供が葉を遊びに使い、秋にはクマが最初に食べる果実です。でも、ミズキのもっとも大切な用途は、餅花（アワゴ）を刺す枝です。ちょうど、旧正月の頃、ミズキは樹液をあげはじめ、枝が美しい紅色になります。この枝に餅をちぎった餅花を刺して豊年を祈る捧げものにするのです。このように大事なミズキは、力のかかる建材や道具に使ってはいけないとされてきました。

白神の人々は、白神の植物を生活のあらゆる面に取り入れ、関わってきたのです。自然と深く関わり合うこのような文化を、何とかして次の世代に伝えていきたいと思っています。

## 展示ホールで遊ぼう！学ぼう！

## 「白神山地の生態系」

1　アオゲラ
2　イヌワシ
3　ニホンモモンガ
4　ヒメオオクワガタ
5　ツガルミセバヤ
6　ブナアオシャチホコ
7　シノリガモ
8　ニホンカモシカ
9　トワダオオカ
10　ツキヨタケ
11　モリアオガエル
12　オオゴマシジミ

展示ホールの奥にあるこのコーナーは、クマさんのシルエットを動かして画面の中に隠れている生きものを探す楽しさがあるので、大変人気があります。クマさんを動かしていると、隠れていた生きものの姿が突然浮かび上がり、説明が始まります。

隠れている生きものを探しながら全部を見ようとすると１５分近くもかかってしまいますから、どこにどんな生きものが隠れているのか、答をお知らせしましょう。

シノリガモ

モモンガ

# ビジターセンター行事レポート

## 渓流の生きもの調査　7月11日

講師　大高明史先生（弘前大学教授）、築瀬友宏先生（階上町立道仏小学校教諭）

なぜか毎年雨にたたられるこの行事。今年もジンクス通り雨が降ってしまいました。午前中は大高先生による渓流の生きもの入門講座。午後は暗門渓流で調査活動。新兵器「箱めがね」で川の中をのぞいて、水生昆虫の様子をじっくり観察することができました。雨のために観察時間は１時間ほどでしたが、ヤマトクロスジヘビトンボ、オオフタオカゲロウ、ヒゲガナカワトビケラ、ジョクリモンカワゲラなど、ヘビトンボの仲間２種、カゲロウの仲間９種、トビケラの仲間４種、カワゲラの仲間３種、アブの仲間２種、合計２０種を観察しました。

（マダラカゲロウ科の一種の幼虫）

（ヒラタカゲロウ科の一種の幼虫）

大高先生の話では、「カゲロウ類など山間渓流を特徴づける水生昆虫が多く、水中に網を張るトビケラが少なかったのは餌になる物質が少ないためで水がきれいな証拠」ということでした。

※写真は観察会に参加した自然生態写真家江川正幸さんが提供して下さいました。

## 夏の特別展「北の森の動物たち～降矢朋子ぬいぐるみ展」

８月１日から８日まで、青森市在住のぬいぐるみ造形作家、特にテディベア作家として全国的に活躍なさっている降矢朋子さんのぬいぐるみ展を行いました。今回は北の森にすむ野生動物のぬいぐるみ、テン、サル、リス、アカネズミなどリアルな作品からモモンガやムササビなどのかわいいものまで３０点ほどが展示されました。中でもカモシカは人気があり「かわいい！」、「連れて帰りたい！」という声が出るほど好評でした。

１日と８日は、降矢さんの指導によるヤマネのぬいぐるみ教室も行われ、２時間ほどでかわいいヤマネが上手に仕上がっていました。

降矢さんの話では、動物のぬいぐるみは心を癒す相手として大切になってきているそうです。

ぬいぐるみの前ではみんな笑顔。
癒しのひととき。

一番人気のカモシカ。

ヤマネのぬいぐるみ教室風景、
立っている方が降矢さん。

かわいいヤマネが続々誕生。

## 白神山地ビジターセンター

【開館時間】9:00～16:30　大型映像上映時刻（10:00・11:20・13:00・14:10・15:20 ※上映時間30分）
【休　館　日】（1）4月～12月　第２月曜日（祝日の場合は翌日）
（2）1月～３月　毎週月曜日と木曜日（祝日の場合は翌日）
（3）年末年始　12月29日～１月３日
【入館料等】入館は無料　映像観覧は有料　●一般　200円　●小・中学校　100円　※団体割引（20人以上）

〒036-1411　青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61－1
Tel：0172－85－2810　Fax：0172－85－2833
ホームページ http://www.shirakami-visitor.jp/

※42名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。（要申込み）
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。

※この白神山地ビジターセンターだよりは古紙配合率100％、白色度82.0％の再生紙を使用しています。